

# 中部人懇通信 No.1

人権教育  
主任対象

平成26年6月20日（火）に、人権教育主任を対象とした中部地区人権教育懇談会を開催しました。その内容を報告します。

## 講義及び演習

「人権教育全体計画及び年間指導計画の策定について～成果・課題の整理、そして展望～」  
鳥取県教育委員会事務局人権教育課 係長 森田 泰弘 氏

森田先生には、人権教育を推進するためのポイントについて、各学校の課題を出し合う演習を織り交ぜながら講義をしていただきました。



講義のポイント！

評価は教師の指導を  
改善するためにあります

授業改善につなげるために、児童生徒自身が自らの学習の評価を行うことが必要である。実態把握は何より大切である。



授業改善の取組として教職員自身によるアンケートや教職員相互の授業評価を積極的に行うことが求められる。

各学期や年度ごとに人権教育に関する活動の点検・評価を行うことが求められる。点検と評価は学校全体の組織的な取組として進めていく必要がある。

## グループ協議

「育てたい資質・能力を育むための取組や授業改善について」

資料「街角ウォッチング」を使って「協力」「参加」「体験」を盛り込んだ活動を、参加者が実際に体験しました。毎日の暮らしを「人権」の視点で見直すと、当たり前と思っていたことの中にも、人権が守られていないことがあると気づきました。その気づきから、参加者同士で何ができるかを話し合いました。

## 【参加者の感想より】

- 話し合いを通じて自校で取り組みたいこと（課題）が明らかになった。教員一人一人の人権意識を高めることや学習の評価ができていないと感じた。
- 自分自身を含め、教職員は多忙ではあるが、校内体制を少しずつ整備していきたい。
- 年間指導計画の実施状況を主任として把握した上で、学習や指導の評価について校内で検討したいと感じた。
- 各種の評価アンケートを整理、統合して負担を減らしたり、年間指導計画に記入欄を入れたりして実施状況について学期ごとに点検したい。
- グループ協議では、いろいろな人の意見や考えが分かり良かった。学校でも取り入れてみたい。

## 【まとめ】

平成25年度実施の学校教育実施状況調査から、中部のほとんどの小中学校では、人権教育全体計画に「育てたい資質・能力」が盛り込まれており、目標を明確にして取り組んでいることがうかがえます。しかし、活動全体の定期的な点検や評価には課題が残ります。点検や評価を行い、次年度に向けた計画の見直しや、指導の改善につなげていくことが必要です。今回の懇談会を、自校の人権教育の推進体制を見直すきっかけとしていただきたいと思います。